

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593429

研究課題名(和文)住民との共働による生活習慣病予防活動の評価指標の開発

研究課題名(英文) Development of the evaluation index of the lifestyle-related disease preventive activity between public health nursing and inhabitants

研究代表者

飯野 理恵 (Iino, Rie)

千葉大学・看護学研究科・助教

研究者番号：40513958

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：

本研究の目的は、保健師と住民との共働により取り組まれている生活習慣病予防の評価指標を開発することである。本研究での評価指標とは、保健師が効果的に活動を推進発展させるための方向性を導き出すものである。

保健師と住民との共働により取り組まれている生活習慣病予防活動では、地域づくり活動も含めた評価指標の開発が必要であると考えられる。地域づくり活動を住民と共に取り組むための方向性を見出すための評価指標の項目として、核となるリーダー、住民および地域特性、住民どうしのつながり、外部者を活用する力等に整理された。これらは、時間とともに変化するものでもあるため、定期的に評価する必要がある。

研究成果の概要(英文)：

A purpose of this study is to develop an evaluation index of the lifestyle-related disease preventive activity between public health nursing and inhabitants. I definiens directionality to let a community health nurse promotes activity with the evaluation index in this study effectively and develop. It is thought that the development of the evaluation index that I included the community improvement activity in is necessary for the lifestyle-related disease preventive activity worked on by the working together with a community health nurse and inhabitants. Community improvement activity was arranged for power to utilize a leader, the inhabitants who became the nucleus as an item of the evaluation index to find directionality to wrestle with inhabitants and an area characteristic, the connection between inhabitants, a person of outside. Because these are things changing with time, it is necessary to evaluate it regularly.

研究分野：地域看護学

キーワード：保健師活動

## 1. 研究開始当初の背景

わが国では、生活習慣病の有病者や予備軍は年々増加し、国民医療費に占める生活習慣病の割合も約3割となっている。平成18年6月、医療制度改革関連法が成立し、医療費適正化は、改正の中心に位置づけられた。それに連動して、平成20年度から生活習慣病予防対策が本格的に実施されている。生活習慣病は長い生活で築かれた習慣が大きく影響するため、より若い世代からの取り組みや継続的な取り組みが重要であると言われている。このような取り組みを推進するためには、住民が主体的に活動することが必要である。

住民の主体的な活動では住民組織活動がよく取り上げられる。住民組織活動は、住民が自らの健康問題を明らかにし、その解決に取り組むための活動手段であり、地域の中でグループを組織し、地域全体への取り組みへ発展させるというプロセスがある。2008年から、生活習慣病予防のために、国保をはじめとする医療保険者が内臓脂肪症候群に着目したハイリスクアプローチ(特定健診・特定保健指導)を、市町村がポピュレーションアプローチ(普及啓発)を、分担して実施することとなったが、ハイリスクアプローチを通じて育成したグループ(糖尿病友の会など)が、地域の健康づくりの組織に参加し、ウォーキングの普及や健康教育の講師をはじめ地域の様々な場面で活躍している取り組みは、各地で実践され成果をあげている。そのため、生活習慣病予防対策に取り組む保健師の役割として、住民をサービスの「受け手」として位置づけるのではなく、事業参加を通して個人の健康の維持・増進が地域の健康づくりへとつながっていることに気づき、地域の健康づくりをともに考え行動していける人材になるよう育成することが、今後ますます重要になると考える。住民が健康への価値を認識し、主体的な姿勢を確立するためには、

単に行政側からの一方的な働きかけでは不可能であり、住民とパートナーシップを形成し協働して問題解決に取り組むことで、住民がエンパワメントされ主体的な活動につながる。

以上より、現在のわが国において喫緊の課題となっている「生活習慣病予防」に焦点をあて、住民との共働による取り組みの方向性を導き出すための評価指標を開発する必要性は高い。

## 2. 研究の目的

“住民と共働する”ことにより、地域づくりやまちづくりを推進していくことが重要であるといわれている。また、住民と共働している活動は長い経過を辿り、関わる担当者(保健師)や住民が交代することが多いため、現在の活動を適切に評価しながら、活動の方向性を考えていくことが大変重要になると考えた。

そこで本研究では、より継続的な取り組みの必要性のある生活習慣病に焦点を絞り、“住民と共働する”ことにより、効果的な活動を推進発展させる方向性を導き出すための評価指標の開発を目的とする。

## 3. 研究の方法

評価指標の試案を作成するために、【研究1】として、保健師と住民との共働活動の内容について文献検討とブレインタビューを行った。さらに【研究2】として、地域づくりに取り組んでいる2つの住民組織を対象に、保健師や専門職が住民の問題解決能力をどのように把握しているのか、共働している住民が自分たちの活動に対してどのような認識や意識を持っているか、についてインタビューや参加観察を行った。

### 【倫理的配慮】

各研究ともに、研究趣旨を各調査対象者に十分説明のうえ、協力への同意を得て実施す

ると共に、個人情報保護等の事項を遵守した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究1：保健師と住民との共働活動内容の特徴

保健師が住民と一緒に取り組んでいる活動について、医中誌 WEB 版を用い「保健師」「共働(共同・協働)」「住民」等をキーワードに文献を抽出した。また、保健師活動に関する雑誌等より、保健師と住民が共働で取り組んでいる活動事例について抽出した。さらに、実際に住民と一緒に活動している保健師2名に対し、活動経過や活動内容、活動に対する思いや考えについてインタビューを行った。

その結果、共働する住民の特徴と、活動経過における特徴が見出された。共働する住民の特徴として、地区組織の代表者やボランティア等で、地域への貢献意識や福祉への関心が高い場合と、何らかの健康課題を抱えており、健康に対する意識や関心が高い場合とがあった。また、活動経過における特徴として、住民自身が活動当初から地域づくりや福祉活動ということで、保健師のみならず、様々な職種や専門職と関わりを積極的に持つなどして、必要な人材や資源を得ている場合と、活動当初は保健師が主導していたが、自分たちの課題であることに気づき活動している場合があった。

生活習慣病予防を効果的に推進するためには、住民自身が主体的で継続的に取り組むことが重要である。また、受け持ち地域全体を援助対象として支援する保健師としては、住民の主体的な活動継続を推進することが大切である。そのためには、高血圧や糖尿病といった疾患を限定して取り組むこともあるが、地域づくりという観点から住民同士の交流による活動の継続も大事であると考えられる。住民同士の交流や取り組みにより、閉じこもり予防や寝たきり予防を切り口にして、

食事の話や疾患に対する知識提供もつながると考えられる。つまり、地域づくり活動と生活習慣病予防活動は関連があり、それらを合わせて評価指を作成する必要があることが明らかになった。

##### (2) 研究2：住民が主体的に地域づくりに取り組む要因

住民が主体的に地域づくり活動に取り組んでいる2つの住民組織を対象に、保健師や専門職が住民の問題解決能力をどのように把握し、住民自身の自分たちの活動に対する認識や思い、行動について、インタビューや参加観察を行った。

その結果、住民の立場から地域づくりが出来ている推進要因として、【地域への愛着】【支えあいの気持ち】【自己実現の欲求】【住民同士の同質性】【規範の高さと他者への寛容性】【体験の共有の積み重ね】【協働的リーダーの存在】【学習意欲と外部者の活用】【暮らしの中での連帯力と創造性】【住みやすい環境】などがあった。これらは、住民一人ひとりが有する心情や能力と住民同士に生じる関係性、暮らしに影響する環境があると考えられた。

また、住民が主体的に地域づくりに取り組んでいる推進要因として、保健師は【地域活動のコアになる人がいる】【住民同士の同質性】【外部者を活用する力を持っている】等を捉えており、専門職等として住民の要望に対応できることから関わるといった姿勢であった。このことから、住民の要望や潜在しているニーズに対して、日頃から関心を持って対応する専門職等の存在が明らかになった。

研究1より、保健師と住民との共働により取り組まれている生活習慣病予防活動においては、地域づくり活動が生活習慣病予防活

動につながっている。そのため、地域づくりも含めた評価指標の開発が必要であることが明らかになった。研究2の結果を踏まえて、地域づくりに住民と共に取り組むための方向性を見出すための評価指標として、核となるリーダー、住民および地域特性、住民どうしのつながり、外部者を活用する力等に整理された。これらは、時間とともに変化するものでもあるため、定期的に評価する必要がある。これらの指標の有用性についての検証は、今後の課題である。また、今回の評価指標は、地域づくり活動から導いたものであるため、今後、生活習慣病予防活動における特徴を反映した評価指標を検討する必要がある。

#### 5 . 主な発表論文等

( 研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線 )

[ 学会発表 ] ( 計 2 件 )

(1) Mariko Otsuka , Mina Ishimaru , Rie Iino , Koichi Takeuchi , Yasuki Fujinuma , Kyoko Yamada , Mayumi Asahina , Shoichi Ito , Yuko Sekine , Ikuko Sakai : Factors of promoting independent community activities by residents in the suburbs of the Greater Tokyo Area: Based on resident interviews, The 3<sup>rd</sup> KOREN-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing. 2016年7月1~3日, 釜山(韓国) .

(2) Rie Iino , Mariko Otsuka , Mina Ishimaru , Koichi Takeuchi , Yasuki Fujinuma , Kyoko Yamada , Mayumi Asahina , Shoichi Ito , Yuko Sekine , Ikuko Sakai : Factors of promoting independent community activities by residents in the suburbs of the Greater Tokyo Area: Based on professional interviews The 3<sup>rd</sup> KOREN-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing. 2016年7月1~3日, 釜山(韓国) .

#### 6 . 研究組織

##### (1) 研究代表者

飯野 理恵 ( IINO RIE )  
千葉大学・大学院看護学研究科・助教  
研究者番号 : 40513958

##### (2) 研究分担者

宮崎 美砂子 ( MIYAZAKI MISAKO )  
千葉大学・大学院看護学研究科・教授  
研究者番号 : 80239392  
石丸 美奈 ( ISHIMARU MINA )  
千葉大学・大学院看護学研究科・准教授  
研究者番号 : 70326114  
時田礼子 ( TOKITA REIKO )  
千葉大学・大学院看護学研究科・助教  
研究者番号 : 70554608  
岩瀬 靖子 ( IWASE SEIKO )  
千葉大学・大学院看護学研究科・助教  
研究者番号 : 20431736